令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【東宮下小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	国語科においては、「読むこと」の分野を育成する。現状市平均と一番開いているのは「書くこと」の分野であるが、文章を書くためには読む力が必要であるため、今年度は読む力を育成する。 算数科においては、「数と計算」の領域を育成する。思考力が求められる問題において、そもそも四則演算の能力不足による誤答が多いため、すべての問題の基礎となる数と計算の領域を育成することで算数科における全体的な底上げを図る。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	国語科においては、月曜日のチャレンジ国語の15分を活用し、「読解力プリント」に取り組ませる。推奨学年から2学年ほど下げたものから取り組ませ、問題の解き方を指導するとともに、児童に自分で解けたという達成感を味わわせることを目的とする。 算数科においては、授業時間冒頭5分をパワーアップタイムとし、スピード重視で簡単に解ける計算問題を出題する。方眼が印刷されたプリントで問題の視写から行い、問題を解き、〇 付けを全体で行い、算数ファイルに綴じる。足し算や引き算から始め、空位のあるわり算等少しずつ学力調査で出題される形式に近づけていく。

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語では「目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」問題に課題があった。1つの文章の中で複数の捉えるべき要素がある際に、要素同士の関係性を捉えることができない児童が多かった。 ・算数では「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる」問題に課題があった。線分図も掲載されており、全国の平均正答率も比較的高い問題であったが、誤答分析をした結果、全体量を1ととらえることができている児童が少なかった。 ・どちらの教科においても、無回答率は県や全国と比較しても非常に少ない。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・選択肢を分析し、答えを絞り込んでいくという解き方の流れが習慣づいていない。 ・語彙が少なく、答えを絞り込むことが難しい。 ・算数で学んだ概念を生活に結び付けて考える習慣がなく、量感が十分に養われていない。 ・理解が難しい問題でも、出ている数字や言葉を使ってなんとか解答してみようというねばり強さが育ってきている。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	国語科・算数科ともに学力向上策を実施することができている。国語科においては、効果測定の結果から、選択肢の中に出てくる言葉の意味を理解できず文章を読み解く段階までたどり着いていない現状がみられた。算数科においては、1学期の取組を経て計算能力の向上がみられたが、計算ミスの多さや位をそろえる意識の低さがみられた。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	1学期に行ったものを継続する。加えて国語科では、語彙力向上のため、帯活動の新出漢字の学習時にドリルに掲載されていない熟語を考える活動や自分で例文を考える活動を取り入れる。漢字そのものの意味を理解させ、複数の熟語に使われているということをより意識づける。	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）